

2025
11
7

金

14:40-17:50

不可能を可能にする 地方企業の底力

～地方発のパワーが
「あなたのキャリア観をゆさぶる」～

あなたは自らのキャリアに
「地方企業」という選択肢を
持っていますか？



- ✓ 独創的な技術への執念は世界でも戦える
- ✓ 変革力で社会に貢献するストーリーを創る
- ✓ 挑戦の現場から「働く意味」を学ぶ

参加費無料

会場+オンライン
同時開催

第1部 講演(14:40～16:10) ～埼玉大学のキャリア教育(授業)として実施いたします～

未知の世界に技術力で挑む

「できません」と言わない中小企業の底力

清川メッキ工業株式会社 代表取締役社長 清川 肇 氏

衣料から医療への挑戦

～下町ロケット2“リアル”ガウディ計画～

福井経編興業株式会社 代表取締役社長 高木 義秀 氏

進行役

石阪 督規 氏

埼玉大学キャリアセンター長・教授

ご挨拶

大野 元裕 氏

埼玉県知事

坂井 貴文 氏

埼玉大学長(予定)

総合司会

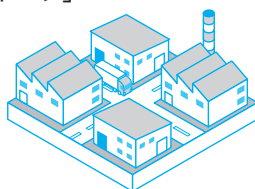
栗田 美和子

一般社団法人埼玉県生産性本部 会長

第2部 パネルディスカッション(16:20～17:50)

挑戦のリアルな舞台裏をみせます

- 地方企業が挑む「未来のチームビルディング」
- 組織を動かすのは人財だ！
- 会社ってどうやって動いているの？



共催：埼玉大学、埼玉県経営者協会、埼玉県経営品質協議会、連合埼玉

後援：経済産業省関東経済産業局、埼玉県、埼玉県産業振興公社／青木信用金庫、川口信用金庫、埼玉縣信用金庫、埼玉りそな銀行、中央労働金庫埼玉県本部、日本政策金融公庫さいたま支店、飯能信用金庫、武蔵野銀行／埼玉りそな産業経済振興財団、ぶぎん地域経済研究所／埼玉経済同友会、埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉中小企業家同友会／埼玉新聞社、時事通信社さいたま支局、テレ玉／中央税務会計事務所
協力：経営品質協議会、サービス産業生産性協議会

会場 埼玉大学全学講義棟
1号館301教室

定員 会場：80名
(埼玉県生産性本部会員企業・団体のみ)
オンライン：定員なし

申込方法 埼玉県生産性本部
ホームページから
お申込みください
<https://spc-net.gr.jp>



お申込み・
お問合せ先

一般社団法人埼玉県生産性本部 事務局(伊藤・西田) TEL 048-762-7884
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-10-4 埼玉建設会館6階

SPC
埼玉県生産性本部

登壇者プロフィール



清川メッキ工業株式会社
代表取締役社長

清川 肇 氏

福井大学工学部大学院卒、富士通にて半導体研究開発に従事した。平成4年に清川メッキ工業に入社しチップ型抵抗器の接合めっき量産開発に取り組む。平成8年フッ素粒子を使った超撥水めっき及び電池材料への粉体めっきの研究開発で学位取得（工学博士/福井大学）。超撥水めっきはアイロンや内視鏡下外科手術に使われ、粉体めっきは花粉にもめっきができる新工法に進化した（平成26年全国発明表彰発明賞を受賞）。平成22年1月代表取締役社長に就任し新分野への仕事を模索し平成26年からよりパワー半導体への接合めっきの量産を開始した。令和4年厚生労働大臣表彰「現代の名工」、令和6年4月黄綬褒章他。



福井経編興業株式会社
代表取締役社長

高木 義秀 氏

日本大学法学部卒業。昭和51年3月福井経編興業入社。平成30年5月代表取締役社長に就任。繊維産業における従来型のビジネスモデルが環境変化により苦境に陥る中で平成22年に未知の医療分野に進出することを決断する。「シルクの糸で人工血管を編めないか」大学からの問い合わせをきっかけに直径六ミリ以下の細い人工血管を開発に着手する。令和1年5月に開発した心臓修復パッチが生後四カ月の乳児の手術に使われた。未知への挑戦を社内プロジェクトチームを結成して試作と検証を繰り返し令和6年6月に販売が開始された。池井戸潤氏の小説「下町ロケット・ガウディ計画」のモデルとなった。



埼玉大学キャリアセンター長・教授

石阪 督規 氏

広島大学大学院修了後、三重大学准教授、東京未来大学教授を経て現職。専攻は、地域社会学・地域創生論。コミュニティ再生とまちづくり、コミュニティビジネスとローカルマーケティング、若者の就労問題、若者論等を研究している。課題解決型のインターンシップを推進し埼玉県内企業とのネットワークを有している。これまで、観光まちづくり、若者就業支援、男女共同参画、産業振興などに関わるアドバイザーや講師、審議会・委員会の委員を数多く歴任。若者の自立、移住・定住に向けた取り組みを支援するほか、多くの自治体や地域のまちづくり、地域再生に携わる。

埼玉県生産性本部の活動コンセプト

県内中小企業の労働生産性向上に貢献する情報発信

- ① 継続的な改善を通じて既存事業を強化し、賃上げや未来への投資を実現する。
- ② マネジメント力を向上させ、従業員エンゲージメントを高める職場環境を整える。
- ③ 中小企業でも自社の成長領域、機会を探し活かすことでイノベーションを起こせる。

埼玉県生産性本部は「経営者、労働組合、学識者」の三者で構成され運営されています。理念的なゴールは、生産性運動三原則が県内中小企業に理解され、共感を得ることです。近年の賃上げに関する社会的要請に貢献するためには、生産性運動三原則という理念の実現を目指す私たちの活動を継続することが重要であると考えます。

生産性運動 三原則

